

第一部 イスラーム・ジェンダー・スタディーズの軌跡

後藤：本日は2022年度公開シンポジウム「イスラーム・ジェンダー学が目指すもの—公正の問題を考える」にご参加くださいます、ありがとうございます。司会・進行を務めます、イスラーム・ジェンダー学科研の分担者で事務局の後藤絵美と申します。どうぞよろしくお願いたします。

私のほうから簡単に「イスラーム・ジェンダー学」というプロジェクトについてお話しさせていただきます。イスラーム・ジェンダー学科研（通称IG科研）は科研費基盤研究（A）のプロジェクトで、研究代表者は長沢栄治先生です。これまで、2期、8年にわたって実施されてきました。第1期は「イスラーム・ジェンダー学構築のための基礎的総合的研究」というタイトルで、2016年度から始まり4年間、東京大学を中心に活動しました。例えば、2015年に長沢先生が「ジェンダーに関するプロジェクトを始めたい』とおっしゃった時、周囲にいた人々は、私自身も含めて、さして乗り気ではなかったように思います。ジェンダーが、研究対象としてあまり現実的に思われなかったのかもしれませんが。それから時間が経ち、プロジェクトの第1期目が終わろうとする頃からでしょうか、「イスラームとジェンダーを扱う研究が、日本でも主流になりつつある」と感じ始めました。今ではすでに主流であると自負しています(笑)。

当初の4年間は基礎的総合的研究として、私たちが「イスラーム・ジェンダー学」と呼ぶものを構築するために活動をしてきました。第2期は2020年度に始まり、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所を中心に活動し、現在に至ります。2020年度からの4年間は、「現代的課題に関する応用的・実践的研究」というタイトルがついています。

イスラーム・ジェンダー学では、事務局に参加して下さっている若手研究者の皆さんのお力も借りまして、素敵なウェブサイト構築しました（<https://islam-gender.jp/index.html>）。このウェブサイトの中で、プロジェクトの概要と今後の活動や活動記録などの紹介をしています。プロジェクトの概要のところを簡単にご紹介します。

本科の趣旨は以下の通りです。

現代世界は、紛争、難民、過激思想とテロ、性的暴力、移民排斥、移民排斥、偏見や差別、格差などの問題にあふれている。各地の問題は密接に絡まっている。たとえば、近年の中東・北アフリカからの難民危機の影響が、この地域に留まらず地球規模へと拡大し、Brexitや移民排斥運動を引き起こし、今や世界各地で人々の間に分断をつくり出しているのである。そして、その分断を作り出す構造的な動きを分析するに当たって重要な方法論的切り口となるのが「イスラーム」と「ジェンダー」である。

本研究は、「イスラーム・ジェンダー学」という新しい知的枠組みをもとに、現代世界が直面する諸問題を考察し、解決方法を模索することを目的とする。

そのためにこれまで、具体的に何をしてきたのかといいますと、毎年、比較的規模の大きなセミナーやシンポジウムを定期的に開催してきました。第2期が始まった2020年からは、新型コロナウイルスの流行により、オンライン上でのイベント開催などが続きました。今回は、久しぶりに対面とオンラインのハイブリッドという形で公開シンポジウムを開催することができました。会場を提供してくださった東京大学と、お手配くださった分担者の小野仁美さんに心よりお礼申し上げます。

ウェブサイトの「活動記録」の欄をクリックすると、他のセミナーや上映会などの開催記録がご覧いただけます。さらにページを開けていくと、例えば「巣ごもり読書会」というものが出てきます。これは、新型コロナウイルスの流行中に外に出られない中、オンライン上だけで読書会を行うという試みでした。こちらの記録がとくに充実してまして、例えば『現実を解きほぐすための哲学』という本の読書会の内容は、文字起こしをPDFで読むことも、音声で聞くこともできます。こうした活動を、より幅広く目にしたり、耳で聞いたりして、知っていただけたらと願いながら取り組みを進めてきました。

また、IG 科研が誇る最大の成果の一つが、イスラーム・ジェンダー・スタディーズ・シリーズの刊行です。これはイスラーム・ジェンダー学科研の成果をわかりやすく、具体的な内容とともに紹介する論集で、明石書店から刊行されています。読者としては、高校生から大学生、あるいは関心のある一般の方々を想定してまして、皆さんが楽しく読めるように、各編者が工夫を凝らして編集してきました。

本日の公開シンポジウム第1部では、イスラーム・ジェンダー・スタディーズ・シリーズの各巻の编者からお話をいただきます。はじめに、既刊の1巻から4巻とまもなく刊行の5巻の各编者に、これを編むにあたって考えたこと、あるいは編集過程で発見したこと、完成した後に考えたことも含めてお話しいただく予定です。その後第2部では「イスラーム・ジェンダー学が目指すもの」と題しまして本科研代表者の長沢栄治先生にご登壇いただきます。残すところ、プロジェクトの期間があと1年半となりました。本科研で何を築いてきたのか、そして今後どのような方向に行くのかというところをお話しいただきたいと思っております。その後にディスカッションを予定しています。以上が、本日のプログラムとなります。